

湖東産地見学会



白秋の哀れを思わせるこの頃、少し遅い安土の美しい紅葉の季節。琵琶湖を要する滋賀県の湖東を訪ねました。11月28日(火)にTDA会員の北川陽子氏のご協力により湖東産地見学会、開催の運びに至りました。湖東地域は古来より麻の産地。近江上布の起源は不詳だが室町時代の文献に文書が現存し、麻布の製織が行われた事が記録されています。また、近江は四方を山々に囲まれ琵琶湖より発する湿気と、鈴鹿より地下数百mを流れる豊富な伏流水が麻の加工・製織に最適であった事が麻布発展の大きな原因のようでした。

今回、麻布に関わる工場4社を見学させて頂きました。

● 中藤織物整理工場

伝統ある近江ちぢみの手揉み仕上げ加工が得意。大手の出来ない手法、風合い、丁寧さを大事にされている。奈良晒や能登上布の産地の整理仕上げもここでされている程、麻の仕上げにおいては定評がある。

● (株)おおまえ

ビスコース加工(擬麻ビス加工糸)、柿渋染め、ほぐし染織を得意とされ、その他漆染め、一本糊付け加工(カンピョウ状の糸)、水撚り麻(毛羽が出ない)など、素材である糸・染め・織りの各工程に於いて、特殊技法と自然味のある商品作りを目指されている。畑の真中にある柿渋染めの現場は圧巻でした。

● 山西整経

湖東産地の特徴である先染め織物に整経の技術は欠かせない繊細な縞割りから大柄まで対応されている。また、近江上布が織られていた古い手機・機料品を収集、修復され次代に残す為の工夫をされている。二代目は、近江上布の技術習得にも努力されている。カンピョウ・昆布・クラゲを使った食べられる織物を作られジャパンクリエイションで入選されました。

● 北川織物工場

染め・緋の手法が得意とされ、この産地でしか出来ない物づくりを追求され、その姿勢を次代に伝えるため若い力との取り組みに力を入れている。また以前されていた、ほぐし織の復活も考えられており、生地作りから縫製・製品販売まで一貫した物づくりを目指されている。

参加者 TDA会員10名、準会員1名、一般1名 計12名

(野々口 悟)